

気候危機打開へ再エネ推進を



丸山 千代子 議員



情報を集めて実行計画を検討

気候危機と呼ぶべき非常事態がおこっている。COP26では2030年までに温室効果ガス排出を、2010年度比で45%削減し、2050年度までに実質ゼロにすることで合意した。気候危機打開に向けた温暖化対策を問う。

問 幸田町ゼロカーボンシティ宣言を表明した。環境基本計画の取り組みは。環境経済部長▼

答 令和4年度中に、2次の計画策定、計画期間は10年間。2050年、二酸化炭素実質排出ゼロを記載し、専門家と数値は考えたい。

問 地球温暖化対策と「ソーラーシェアリング、耕作放棄地での太陽光発電の促進など、

再生可能エネルギーの拡大を。国や県の計画に基づき重点的に再生可能エネルギーの導入の取り組みを拡大すべき。具体的な対策の例を参考にす。

問 自動車産業が中心の幸田町では、脱炭素化で雇用や下請け企業などに与える影響はどうか。

答 本町商工会員のうち製造業が80社で8割弱が自動車関連の企業。特に、エンジン部品の下請企業などは、雇用等の様々な影響が及ぶことを想定。

問 2030年度までに、町のすべての施設に再生可能エネルギー電力の100%導入を目指す考えは。

答 既存技術を積極的に取り入れ、可能な限り普及導入を施設



ため池に浮かべた太陽光パネル（里区）

所管部署へ訴えていく。職員全員が高い意識を持ち、取り組むことが必要不可欠である。

問 気候危機打開に向け再生可能エネルギーの促進で、2050年に自然エネルギー100%自給の考えは。

答 100%自給は目指さざるを得ない。情報を集めて実行計画を検討していく。

長嶺福祉医療ゾーンの見直しを

令和4年度中に計画精度高める

長嶺北部地区福祉医療ゾーン構想の概算全体事業費は、約28億4000万円にのぼる。過大な財政負担とならない計画をたてる考えを問う。

問 場所の見直しは。

答 事業調整監▼介護老人保健施設は、連携に適した長嶺北部地区が最適。障害者支援施設は、町内に誘致さえできれば施策推進の大きな一歩。しかし、当地で地元理解を得ており大変大きなメリットと考える。

問 施設整備に対する補助金などの支援制度を明確にする考えは。

答 議会の理解を得ながら、決まりとして制定をしていくべき。

問 施設完成後の町の負担額などどうなるか。

答 介護老人保健施設に該当しない部分、例えば、公園整備費並びに運営費は、町の負担。検討し公募で明示する。



黒木 一 議員

職員の長期欠勤の具体的制度は

1年以内は給料など8割を支給



コロナ禍が長期化する中で、ストレス健康障害が増えている。投書や町民から聞こえてくる声に危惧し、問う。

問 過去3年での3ヶ月以上長期欠勤の人数は。

答 総務部長▼令和元年度4人、2年度6人、3年度5人。

問 特に精神障害について、何が起因と考えているか。

答 業務の量や向き不向き、人間関係的なこと。原因不明の場合もある。

問 休職者の管理担当と対応策は。

答 所管課・人事秘書課、双方が情報を共有し、産業医の健康相談の案内もしている。

問 産業医との関係は。

答 2人体制で健康相談を実施。時間外勤務が月間100時間を超えるなど、規定を超える職員には強制面談をしている。

問 長期欠勤者の具体的な取り扱い制度は。

答 休職期間が1年に達するまでは、給料など8割支給。

問 復職後の取り扱い。

答 原則休職前と同じ部署に復帰。諸状況により定期異動で、他部署へ異動も。

問 要因の一つと思われるハラスメントの実態、相談窓口、対策委員会等の開催は。

答 苦情・相談があり、人事秘書課が必要



町職員研修の様子

と認めた時、苦情処理委員会に依頼する。3年前に1件ある。

職員の教育・研修の実態は

初期、職歴、職位別で実施

今後の町政を担う若手育成は必要と思われるが、取り組みを問う。

問 職員研修は、層別に年間どのくらい実施されているか。

答 総務部長▼採用直後に4日間で基礎的な地方公務員の知識、6カ月後に2日間実施。4年後の4日間研修など。

問 そもそも役場内には、教育・研修プログラムのスケジュールはあるのか。

答 採用初期研修から一般職の7年、10

年、職位別研修など実施している。

問 特に、入庁時の教育・研修は重要、参考までに昨年の実施内容は。

答 地方公務員制度、文書の作成、人事評価制度、接遇、財政町の総合計画など。

問 入庁前の教育を、中止した理由は。

答 個々の事情により参加、不参加が生じ不平等を感じたため。

問 今後は多様な業務が増加してくる中で、人材育成の思いは。

答 町長▼人事異動はステップアップで

きるよう推めている。休職者に対するケア・相談・研修体制の充実に向けた措置を講ずる必要があることの認識でいる。